



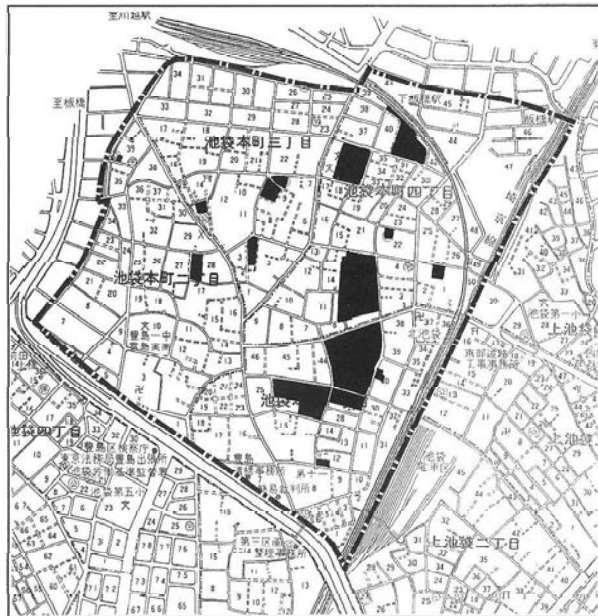
公共施設の見直し

豊島区は今年1月、池袋本町地区内の公共施設配置を見直すことを明らかにしました。これは、昨年文部科学省が発表した学校の施設基準に合わせて、施設配置を検討するというものです。

文部科学省の新しい学校の基準は、これまでのものより広い校庭や校舎が必要となります。その基準に照らすと豊島区内の小中学校の半分は基準以下となってしまいます。そこで、隣接する公共施設の配置を見直し、基準に合わせておける場所については基準どおりにするようになりたいというのが豊島区の考えです。

ひろばも見直しの対象に

ご存知のように池袋本町には3つの小中学校があります。この中で新しい基準を満たしているのは池二小だけです。文成小は区内で最も面積が小さい学校であるだけ



に、まったく基準に達しません。池袋中も不足します。そこで豊島区では、池二小に隣接する防災ひろばも含めて公共施設を見直したいと、町会や防災まちづくりの会、防災ひろばの会に申し入れてきました。

具体的には、池二小と防災ひろばを1つの敷地にして新しい学校を建設するという案が考えられます。学校の規模は将来の人口の移り変わりも想定しながら、考える必要があります。そして地区内には学校やひろばの他にもたくさん公共施設があります。それらきどのように配置しなおせばよいか、今、豊島区で検討作業が行われています。近々検討結果が発表される予定です。

ひろばの場所がかわる!?

豊島区では、公共施設の再配置を検討する場合でも、防災ひろばに整備を予定していた防災施設は、地区内に確保することを約束しています。検討の結果を見ないとなんとも言えませんが、今の防災ひろばの場所ではなくなる可能性が高いということです。

地区内にはいくつかの候補地が考えられます。そしてそれと同時にもう少し小さな敷地でも防災的な整備をすることが可能となるかもしれません。

危険度の高い地区でも

このことは2つの意味から考えることができます。1つは地区内の公共施設を見直すことにより、これまで防災ひろば周辺に集中しがちだった防災的な整備が、より危険度の高い地区でも行うことができるようになる可能性

があるということです。それによって地区全体を災害に強く逃げなくてもよいまちにすることができるようになります。

今回の区からの提案は、防災まちづくりの会が地区全体の安全性を高めるために検討した際に、やりたくてもできなかった、根本的な整備を行う可能性を示しています。その意味からは歓迎すべき提案であると考えられることもできます。

白紙にもどる計画案

もう1つの意味は、今回の区の提案によって、これまで長年に亘って検討してきた防災ひろばの計画が白紙に戻るといったことです。

防災ひろばの計画は主に防災ひろばの会が行ってきました。会は平成12年に結成され、これまで30回にわたり検討を行い、昨年春には地元の方々に計画案を発表し、ご意見をいただきながらその結果を区長に報告しました。その時点では、区では

平成16年度から工事を行うという予定でした。

それが区長提言から1年も経たない間に白紙になってしまったのです。しかも新しい敷地が防災公園用地として確保されるとしても、その整備までには、学校の統廃合や移転など含めると非常に長い時間がかかることが予想されます。すぐに別の場所を対象に検討を行うという訳には行きそうもありません。

ひろばの会の役割

今、防災まちづくりの会と防災ひろばの会では、この問題に対してどのように対応したらよいかで苦慮しています。特にひろばの会では、会の活動の意味を問う意見も出されています。

もともと防災ひろばの会は、4000㎡と2000㎡のJR跡地を防災施設として整備するための検討会として発足しました。会では4000㎡については防災ひろば、2000㎡は防災センターとして整備するという区の方針に基づいて検討を行い、ひろばについては計画づくりを終えて、防災センターについてはまちづくりの会との共同検討に入ったばかりでした。

さらに、ひろばの会にはもう1つの役割がうまれていきます。ひろばの暫定利用です。正式な防災公園が整備されるまでのあいだ、空き地として放っておくのはもったいないので、区と住民が役割を分担し、協力しあいが

ら、ひろばを使えるようにしたことです。それは防災公園が住民参加の公園として真に親しまれる公園となるための、格好の予行演習の場であり、地元の人と意識を育てるための場となっています。そのために会では、毎日の鍵の開閉や日常の清掃・維持管理、何か問題が起こった時の対応などを行っています。

ひろばの会では、会の役割として、①防災センターの検討と②ひろばの暫定利用が残っていることを確認しました。特にひろばの暫定利用については、会が区との共同管理から手を引くと、ひろばの暫定利用も行われなくなるため、是非とも維持すべきであるという意見が多くなっています。しかも、今回の件でひろばの暫定利用期間が相当に長くなる可能性があることを考えると、ひろばの会の役割はますます重要になります。

ひろばの会のこれから

ひろばの会では、このような状況を踏まえて、区からの公共施設配置の見直し案の提示を待って、これからどのような体制で、残された役割を果たすかを検討することにしました。また、同時にますます重要になるひろばの暫定利用について、鍵の管理や、その他の維持管理のついてさらに積極的に係わるようにと、区に要望しています。



ひろばでとれたお米を炊いて

池袋第二小学校 PTA会長 小野寺 茂

2月21日に池袋第二小学校5年生たち(現6年生)の「ごはんパーティ」に招待されました。昨年の春から防災ひろばを利用して、田んぼ作りから始まり、田植え、秋には稲刈り、脱穀と子供たちや先生方、地域の方や保護者の方が一生懸命育てたお米です。

家庭科室で子供たちが作ってくれたごはんを皆で食べました。子供たちにお米作りの感想を聞いてみました。「田んぼ作りの時は泥まみれになって楽しかった」とか、「田植えは腰が痛かった」など色々な感想がありました。私自身もお米作りのお手伝いをして、子供たちの感想が、私が感じたことと同じだったことなどを話しながら過ごしました。そうです。感想は同じ管です。子供たちも私も田んぼを見た



ことはあっても、入ったことはないのですから。子供たちや協力して下さった方々の手間のかかった「ごはん」は、一味も二味もおいしいものでした。このような貴重な体験学習が、豊島区内でできるというのは、防災まちづくりの方々のお蔭だと思います。本当にありがとうございました。